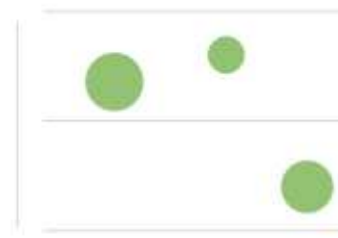
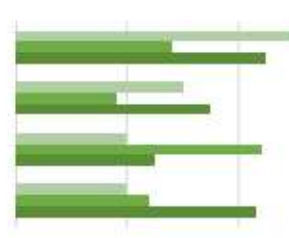
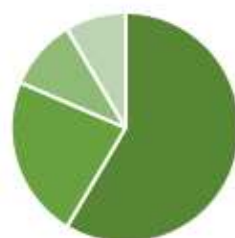
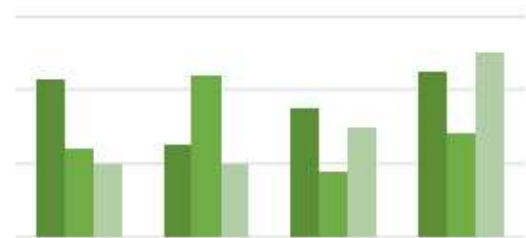


# 令和3年度 データ利活用ワーキンググループの まとめ



# 北海道Society5.0におけるデータの利活用の必要性

なぜ今データの利活用が必要なのか？

少子高齢化で働き手が少なくなっていく中で、

人やデータなど社会のリソース  
を有効利用しないと

日本の存続

北海道の存続

ひいては

ができなくなる  
という危機感が必要



社会全体の効率性の向上

リソースが生み出す価値の向上

北海道Society5.0の実現に向けて、道民みんなで共有

# データ利活用ワーキンググループにおける検討

## 令和3年度の 成果

- 道庁及び道内市町村のオープンデータの課題の抽出
- 民間のデータ利活用の推進への課題の抽出

## 課題

- 自治体のデータは機械判読できるデータが少なく、どのようなデータがあるかもわからない
- 自治体職員が一番のユーザーにしないとデータ利活用は進まない  
現状は職員の手間が多い
- 民間がデータを公開するためには、メリットが必要

## 今後の 取組

- 道庁の保有データの棚卸し調査の実施、結果を公開
- 自治体職員へデータ利活用を周知する方策の検討
- 民間企業にメリットとなるデータ利活用の方策の検討

# 令和3年度WGの検討結果（取組の方向性）

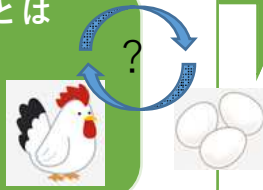
## ワーキンググループでの意見

DXとはITの仕組みの上に  
社会の仕組みをのせること

行政データのオープンデータは  
DXの一丁目一番地

機械判読可能データは  
ニーズの高いものから整備していくべき

データを公開することと利用することは  
「鶏と卵」のようなもの  
黙っていれば始まらないが、  
道庁のデータ棚卸しは最初の  
ひと転がりになる



DXもオープンデータも  
仕事が増えるのでやりたくない

首長にオープンデータは  
「法律に基づいている」ことを  
きちんと伝える

## 令和4年度 道の取組の方向性

道庁の保有するデータを把握するため  
庁内データ棚卸し調査を実施

民間ニーズ把握のため  
オープンデータ官民ラウンドテーブルを開催

データの利用事例を創出するため  
アイデアソン、ハッカソンの開催

自治体職員のデータ利活用の理解を深めるため  
自治体職員向けのセミナーを実施

オープンデータ未取組自治体の市町村の首長、幹部へ  
道から説明を検討

# 令和3年度WGの検討結果（取組の方向性）

## ワーキンググループでの意見

民間と行政が同じ目線でオープンデータを作って公開していくという方法論が重要

民間もデータを出すことにはアレルギーデータを使ってほしいというサイクルが出来れば理想。

民間のデータは財産。メリットが無いと公開することは出来ないのでは無いか

行政のデータを活用したくてもどこにデータがあるかわかりづらい

## 令和4年度 道の取組の方向性

北海道のデータ活用を進めている民間企業へヒアリングを行い、必要に応じて意見をもらう。

民間企業にデータ利活用することでメリットのある仕組み（データサイクル）の構築を検討

# 令和4年度のWGで継続検討

データ利活用WGでの検討内容

- **民間企業のデータ利活用（行政データ、民間データ）を推進するための方策**
- **民間にメリットのあるデータ公開の方策の検討**
- **活用しやすい行政データの公開を推進**

など

# 令和4年度第1回親会議での意見

- 今求められているのはデータプラットフォームとか新しくできあがるデジタルインフラでいろんな機能が実現されること。少し縦割り感が強いなって気がする。一つの北海道のそのSociety5.0っていうのは、オープンデータ基盤、それから先ほどのFIWARE、データブローキングのその基盤があつてとか、何かそういうイメージがちょっと薄いという感じ。それを強化したい。（山本座長）
- データをあげて連携して何かをやるとか、データを活用しようとか、なかなかリアリティがなくて、我々も実際うまく説明できないし、予算もなかなかとりづらい。そうした部分歯がゆさつていうものがあり、データ利活用つていう部分が、もう少しわかるような展開ができればなつていうふうに思っている。（西野委員）
- そんな簡単にはいかないと思うんですけども。ほかにも北海道Society5.0っていうのは、実感するつてことは当然必要です。だけれども、ただ単にわかりやすいという誤謬にはまらないように、しっかりしたデータインフラを作つて、それに対する投資をして、ぜひ我々が北海道にいてよかつたと思うようなそういったインフラを作つていければなと思います。（山本座長）